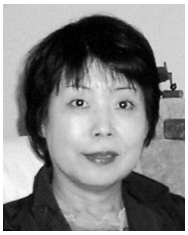
巻頭エッセイ

テムズ川の物語



平井杏子

コッツウォルド丘陵に源を発し，ロンドンを貫流して北海に注ぐテムズの長流ほど豊かな物語を抱えた河川は他にないだろう。英国屈指の滑稽小説，ジェローム・K・ジェロームの『ボートの３人男』（1889）は，３人の男と１匹の犬が，手漕ぎボートでこの川を遡る珍道中記だが，両岸には遙か２千年を遡る歴史が刻まれている。ジェロームが執筆に使ったパブが中流のマーロウにある。河岸に建つのは，『釣魚大全（コンプリート アングラー）』（1653）の著者アイザック・ウォールトンゆかりのホテルである。近くの閘門（こうもん）（ロック）あたりが気に入りの釣り場だった。1966年にテムズ・パスが川沿いに通ってから水辺に集まる人びとが増えた。ヨットやナロウボートが水鳥の傍らを流れて行くさまは，ジョン・コンスタブルの絵さながらの美しさだ。

アガサ・クリスティは，上流のウォリングフォードに終の棲家を定め，今も隣村チョルジーの教会墓地に眠っているが，ここマーロウの水際に建つミル・ハウスを殺人の舞台にした。『茶色の服の男』（1924）である。語り手のアンはその空き家を訪ね，「使い古した〈雰囲気〉という語の意味が初めてわかった」と呟く。残忍で不吉な気配を感じるというのだ。引用符で強調された“atmosphere”という語は本来，ギリシア語で〈気〉を表わすatmosと，〈地球〉を意味するsphairaが結合した科学用語であった。この語を効果的に使ったのは，エドガー・アラン・ポーの怪奇小説『アッシャー家の崩壊』（1839）である。朽ちた樹木や灰色の壁や腐敗した沼から滲み出る怪しい気を，ポーの語り手は「雰囲気」と言う。崩壊し淀んだ沼の底に飲み込まれるアッシャー家の最期を，アガサはこのマーロウの流れに見たのだろうか。

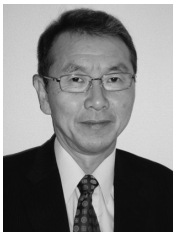
思えばテムズ川は，権力をめぐる抗争と人間の苦悶の歴史を水面に映し続けてきた。勝者の背後には敗者の影がつきまとう。流域に夥しい数のゴースト伝説がうごめいているのも故なきことではない。マーロウ対岸の水辺に建つスポーツクラブ，かつてのビシャム修道院にも，エリザベス１世の廷臣ホビー卿夫人が徘徊しているという噂だ。しかし川辺の魅力は富裕な人びとを招きよせ，河岸には豪邸が立ち並ぶ。少し上流のメイプルダーラム・ハウスもそのひとつ。18世紀の詩人アレグザンダー・ポープは館の美人姉妹に恋をした。病を抱えていた彼はトゥッケナムの河畔で暮らしたが，死後墓荒らしに遭い，今も失くした頭蓋骨を探しているという。

メイプルダーラム・ハウスは『たのしい川べ』（1908，原題『柳に吹く風』）の挿絵を描いたE. H. シェパードが，金持ちのヒキガエル館のモデルにした屋敷だ。モグラや川ネズミの水辺の暮らしを描いた童話である。著者ケネス・グレアムは孤児となり，オックスフォード大学への進学は叶わなかったが，成功を収めたのちパングボンの村で暮らした。だが，家庭生活は苦悩に満ちたものであった。そういえばボートの３人男たちはこの近くの川面に，自害した女の水死体を発見したのだった。上流には，ルイス・キャロルが『不思議の国のアリス』（1865）のモデル，アリス・リデルと小舟に乗り込んだフォリー橋。オックスフォードは英国で人気の高い推理作家コリン・デクスターの生んだモース主任警部の活躍の舞台。彼はアガサ・クリスティの大ファンであるとか。テムズはそんな人びとの，さまざまな思いをつないで流れていく。

（ひらい　きょうこ・昭和女子大学教授）

Departure English Expression I, II

「英語表現Ⅰ」から「英語表現Ⅱ」へ ～自己表現力を強化する～



山岡憲史

◆「英語表現Ⅰ」始動

「英語表現Ⅰ」を履修させる高等学校で，学習指導要領が求める「基本的な言語規則に基づいて，様々な場面に応じて適切に話すことや書くことができるようにし，あわせて論理的思考力や批判的思考力を養う」ことをねらいとして，確かな表現力をつけさせる指導が開始されました。

「文法はコミュニケーションを支えるものとして」という学習指導要領の記述を俟つまでもなく，表現力の養成には文法を駆使できる力を欠かすことはできません。しかし，これまで，いわゆる準テキストで文法を教えてきた指導の仕方が，生徒の表現力を伸ばしていたかを，まずは謙虚に反省して見る必要があるでしょう。

これまでは，文法の学習事項を網羅的に理解させ，規則を暗記させてから，演習問題でその理解を確実にする指導が行われてきました。その背景には，「できるだけ早いうちに高校で学ぶべき文法事項を学習させておけば，それを読解や表現に使えるはず」という確固とした考え方がありました。ところが，多くの文法事項を学習させることにより，生徒の習得が追いつかず，結果として，文法を嫌う生徒が増え，文法を活用する力は期待するほど伸びなかったのが実情だと思います。英文を解釈する時にはある程度の認知ができても，文法を使って表現するという力は，型にはまった和文英訳ができる程度にしかつかなかったことを残念に感じられたことのある先生も多いのではないでしょうか。「労多くして功少なし」の指導に徒労感を覚え，「生徒の文法力がつかない」と嘆息することがしばしばではなかったでしょうか。

◆『*Departure* 英語表現Ⅰ』の編集方針

『*Departure* 英語表現Ⅰ』では，このような，多くの文法事項を一気に教え，演習を繰り返すという指導の非効率性を反省し，発信能力に資する文法に習熟させて，自己表現できる力を養うことを目指しました。演習を通じて形式と意味に慣れさせた後は，使用場面や機能に焦点を当てて表現の基礎練習をし，併せて読解やリスニングにより，理解する時にも文法が役立つことを学ぶことにより，多面的に文法への理解を深めることができるように工夫をしました。そして最後には，学んだ文法事項を使って１パラグラフを書く作業から話す活動につなぎ，確かな表現力をつける手立てを施しています。「教えすぎ」を避け，まずは表現に使える文法を確実に身につけさせるというこの編集方針が，自己表現能力の育成に努力されている先生方に共感していただけたことは大きな喜びです。お使いいただいた感想やご意見をお寄せいただけることを願っております。

◆『*Departure* 英語表現Ⅱ』に込めた思い

『*Departure* 英語表現II』は，『*Departure* 英語表現Ⅰ』の方針を維持し，学習指導要領の定める「複雑な文構造を用いて正確に内容的なまとまりのある多様な文章が書けるようにすること，あわせて論理的思考力や批判的思考力を養うこと」を徹底した編集方針としました。

文法については，形式・意味・機能の理解のも

とに，自己表現能力を一層高めるためのさまざまな手立てを施しました。『*Departure* 英語表現Ⅰ』で学んだ文法を復習しながら，さらに高度な文構造をより深く学習し，言語の機能を理解して表現力を伸ばす学習プロセスを大切にして，1パラグラフから複数のパラグラフを書くための段階的な学習ができるように，細心の配慮を払っています。読むことや聞くことも大切にしながら，学習事項を確認していく活動も豊富に用意しています。また，こなれた日本語を英語にする時に必要な，日本語の言い換えの例を数多く示し，創造的に英語を書く手順を示しています。

さらに，「スピーチやプレゼンテーション，ディスカッション，ディベートなど高度なコミュニケーションを行うことができるようにすること」（学習指導要領）には，十分な紙数を割き，ドラフトを書く段階から発表に至るまで，無理なく手順を踏んで活動ができるように編集をしています。

テーマや論題についても，現代社会の諸相を反映し，高校生の成長に資するものを選んでいます。表現能力は言語形式や表現様式の理解とともに，自らが表現したいという意欲に支えられます。さまざまな例文やモデル文を理解・咀嚼し，それを参考にして，自分の思いや考えを伝えながら，生徒たちが論理的思考力や批判的思考力を身につけてくれることが，執筆者の願いです。

各 part の詳細なねらいや編集方針については，本誌 p. 4 以降をご覧ください。

◆「英語表現」の教科書についての考え方

科目「英語表現」の教科書に，すべての文法事項が盛り込まれているわけではありません。教科書は文法の参考書でもワークブックでもありません。『*Departure* 英語表現Ⅰ，Ⅱ』では，高校生に必要な重要文法はもれなく扱いましたが，前述したとおり，主として高校生が英文を解釈する時にのみ必要な高度な文法事項や，細かい規則は取り上げていません。

では，教科書で扱われていない部分はどうするのか？　私たちは，「表現に必要な文法事項を有効に使って書いたり話したりできれば，認知に必要なそれ以上の文法事項は，科目「コミュニケーション英語」や他の多くの活動でいつかは必ず遭遇し，その中で学習していくべきもの」という考え方に立っています。

例えば，表現の段階で no more than を知っていなくとも，only で表現できればよしとして，英文を読む段階で no more than が出てきたらそこで学習をすればいいのです。表現力を伸ばす指導では，完璧にすべての文法事項をもれなく学ばせるという考え方を捨て，基礎的なことを確実に定着させるという方針で指導をすべきと考えます。後に，さまざまな言語事象に遭遇した時に，それを正しく理解し，願わくはそれをも表現の幅を広げるものとして学び取れるようにするためには，しっかりした表現のための基礎文法の理解と正しい構造で文章を書ける表現力こそが欠かせない前提と言えるでしょう。

教科書を十分に活用し，自己学習力をつけることも，『*Departure* 英語表現Ⅰ，Ⅱ』が目指す大きな方向性です。

なお，『*Departure* 英語表現Ⅱ』には，補助教材として『ライティング・サポート・ノート』を制作します。これは，英語を書く力の伸長を目指して，充実した自己表現能力を身につけさせることを目標にしています。大学入試の和文英訳や自由作文の対策にもご活用いただけると思います。

文法・文構造という柱に，高校生の関心を喚起するテーマ設定という骨格を大切にし，それに多彩な自己表現活動により肉付けをする――高校生が意欲を持って自己表現に取り組んでくれるための骨格の太い教科書として，渾身の力を込めて編集に当たった筆者すべての願いをお届けします。

（やまおか　けんじ　立命館大学教授）

Departure English Expression I, II

Part 1

適切な英文一文で表現する力を身につけるパート

塚田　豊

Departure English Expression II・Part 1（全20課）では，英文一文を正しく作るための文構造の学習が中心になります。特徴は，「表現のための学び」と「考えて気づく」を重視していることです。

◆すべての技能が絡むレッスン構成

各課は，見開きで次のとおりです。聞く・書く・読む・話す活動がすべて含まれます。

Warm up リスニング	Practice 練習問題
Structures 文構造の学習	Express Yourself 自己表現活動
Ways to Express It 日本語を噛み砕く練習	Challenge! パッセージの読解，話し合う活動

◆発信のプロセスをたどって行う文法学習

各課の Structures では，まさに「表現のため」の文法学習を行います。例えば，最初の 9 課は次のようになっています。

Lesson 1：主語（様々な主語）

Lesson 2-4：動詞（現在時制・状態／動作［L2］，自動詞／他動詞・助動詞・態［L3］，過去・現在完了・過去完了［L4］）

Lesson 5-7：動詞に続く文構造（補語・目的語［L5］，様々な文構造①［L6］，様々な文構造②［L7］）

Lesson 8，9：名詞の修飾・説明（句による修飾［L8］，節による修飾・説明［L9］）

このように，従来のような文法項目ごとに 1 つずつ学んでいくスタイルにはなっていません。つまり，文法知識の獲得を意図しているのではなく，**アイデアを英文で表現するための手順と技能を身につけることに焦点**が当てられています。

生徒が英語で発信しようとするとき，一定の意味のある内容を一気に英語に変換するのは困難です。手順として，まず主語を定め，次に動詞を選び，そして続く文構造に語句を埋め込んで英文を完成することになります。Part 1 では，そのプロセスをたどりながら，それぞれの段階で活用する文法項目や，表現の際に注意すべき点を学びます。つまり，どんな手順で英文を組み立て，その過程で何に気をつけ，どの文法を活用すればよいかを，整理して学んでいくことになります。

日→英の過程で間違えやすい点として，例えば「～している」をどう表現するか，があります。Lesson 2 では，日本語で「～している」を含む文が 3 つ提示され，どんな意味内容のときにどの変化形（動作／状態動詞の現在形，現在進行形）を用いるかを学びます。他の課では「～した」が必ずしも過去形でないこと［L4］や，「(人）に～(物）を…」が SVOO とはならない場合もあること［L6］に注意を払います。Lesson 13 では，「もし…なら」に対して，可能性の有無により If S 現在形 . . . ，と If S were to . . . ，を使い分けることを学びます。また，可算・不可算名詞の使い分け［L15］や，連語［L16］を学習項目として扱うなど，「**なるほど，そこに注意して表現しな**

ければいけないのか」に気づく糸口が様々に与えられます。このように，文法を深く理解し，表現の際に正しく活用することや，自ら注意点に目を向け，英文を点検・添削し，改善する姿勢を養うことを，意図しています。

◆日本語を分析し，噛み砕いて表現する練習

生徒が英語で表現する際の課題として，日本語を直訳しようとして行き詰まる，ということが挙げられます。表現力を伸ばすためには，**もとの日本語を噛み砕いて，知っている語句で表現する姿勢を身につける**必要があります。この練習を継続して行い，習慣化しようというねらいがあるのが，Ways to Express It です。Part 2 まで全課で続けます。ここでは，例えば「活躍する」→「とてもうまくやる」や，「相談に乗る」→「話を聞きアドバイスする」など，日本語特有の言い回しや一見英語にしにくそうな日本文でも，噛み砕いて英語で表現できる例を示しています。

Practice では並べ替えと和文英訳に取り組みますが，ここでも，このように日本語を噛み砕いて表現する練習問題が含まれています。また，本教科書準拠のワークブック『ライティング・サポート・ノート』にも同種の問題が（ヒント付きで）ふんだんに用意されており，併せて活用することで，この訓練を数多くこなせます。

◆身近な内容を，楽しみながら自己表現する活動

Express Yourself は各課の中心的活動であり，**課のトピックに関連して考えや体験などを，3～4文のスピーチで表現する**ものです。ここには課の学習内容を含んだフォーマットが空欄付きで示されており，空欄に生徒が独自の内容を入れれば，短くまとまったスピーチが完成します。

一般に生徒は，自分のことを表現する活動にはとりわけ意欲的に取り組もうとします。好きな音楽や部活のことをクラスメートに知ってもらいたいと思っている生徒は多いでしょう。家族への感謝の言葉など，日本語では言いにくくても英語でなら言えるような場合もあるでしょう。ここでは，そのような身近な内容や体験談を取り上げスピーチで発表する機会を設定することで，生徒の表現への意欲を高めます。

この自己表現活動では，**気持ちが前向きになるような内容が題材として設定**されています。スピーチを考えることで自己を振り返る機会としてくれると嬉しい限りです。また，後半の課では社会問題が扱われます。それらの問題に目を向け，考える機会にしてほしいとも願っています。

通常，スピーチの指導では，準備や指導の負担が大きかったり，発表に時間がかかったりしますが，ここでの自己表現は短時間で行うことができ，発表も時間を取らずに行うことができます。例えば数人のグループ内で発表したり，数課ごとに1回，どれかの課の内容をクラス全体に発表するなどが可能です。

◆面白さ，発見，学びのある内容

各課の最初にはリスニング活動としての Warm-up が設定されています。高校生の日常にありそうな場面での会話を聞いて，理解する活動です。会話にはちょっとしたオチがついているものもあり，面白くて分かりやすくなっています。

Challenge! は課の最後に行います。トピックに関連した80語程度のパッセージを読み，感想などを述べ合う活動です。**題材には，考えさせられるもの，発見のあるもの**を取り上げました。語句や英文は，手応えのあるレベルになっています。興味を持って読んでもらえるものと思います。

『ライティング・サポート・ノート』では大学入試問題も取り上げ，生徒のあらゆるニーズに対応する学習ができるようになっています。

本教科書を通じて，生徒が自ら英語で表現することへの意欲を高め，力を伸ばしてくれることを期待します。

（つかだ　ゆたか・滋賀県立長浜北高等学校教諭）

Departure English Expression I, II

Part 2

コミュニケーション能力の土台を築くパート

吉田健三

◆ Part 2 の到達目標

1文の英語表現を学習目標とする Part 1 から発展して，1つのパラグラフで自己表現を行うのが Part 2（全10課）の学習です。

10のテーマを軸に，依頼や提案などの機能表現（Functions：Fs）と，英語に直しづらい表現を言い換えるスキル（Ways to Express It：WTEI）を学習し，それを基礎にまとまりのある英文で自分の考えを伝えることを到達目標にしています。

◆有機的でハイブリッドなレッスン構成

Warm-up や Listen and Think のリスニング・スクリプト，Challenge! や Keynote Passage の読解用の英文には，学習項目の Fs や WTEI の表現が盛り込まれ，具体的な場面で有機的に学習できる工夫がなされています。また，4技能の各活動を1つの課で行うハイブリッドな構成になっています。

◇ Part 2 のページ構成

〈p. 1〉	〈p. 2〉
Warm-up リスニング （Fs や WTEI の提示） Functions 機能表現の学習 Ways to Express It 難しい表現を既習の知識で噛み砕くスキルを学習	Practice Fs と WTEI の応用・定着 Challenge! 英文を読解した後，意見を発表する発話活動（Fs と WTEI の応用・定着）

〈p. 3〉	〈p. 4〉
Listen and Think リスニング （Fs や WTEI の応用・定着） Keynote Passage Outlining 英文を読解，その後パラグラフの構成を考える活動	Get Ready to Write Outlining を参考に，自己表現の英文構成を考える Write on Your Own 指示されたテーマで，1つのパラグラフを書く活動 Let's Speak 書いたパラグラフの内容を発表する発話活動

◆自己表現の基礎：機能表現と言い換えのスキル

英語のコミュニケーション能力を身につけるには，言語としての英語に関する知識と場面や状況に応じ適切な表現が使用できる社会的・機能的な言語使用の能力の習得が求められます。

コミュニケーション能力とは，文法能力と前後関係や場面などの状況を正確に把握して的確に伝達できる談話能力，敬語など社会的規則や約束事を正確に把握して的確に伝達できる社会言語的能力，語彙や文法などの表現力の不足を補うために言い換えや推測をする方略的能力のことです。

Fs と WTEI は，まさにコミュニケーション能力の土台となる談話能力，社会言語的能力，方略的能力の向上を目指しています。

◇ Functions の具体例

a. 感謝する表現（Lesson 1）**I'm grateful for** explaining e-banking to me. e-banking について

のご説明に感謝します。/**b.** 希望を述べる表現（Lesson 3）**I hope** your argument with him will teach you a lesson. 彼との口論が君のいい教訓になればいいと思う。/**c.** 対比，対照を表現する（Lesson 6）**While** some signs are universal, many differ from country to country. 標識は世界共通のものもありますが，多くは国によって異なります。/**d.** 自分の意見を主張する表現（Lesson 9）He **asserts** that all Japanese aged 18 or above should have the right to vote. 彼は18歳以上のすべての日本人は選挙権を持つべきだと主張している。

◇ Ways to Express It の具体例

WTEI については，Part 1（各課 2 つ）の継続的な学習として，Part 2 では各課 3 つの表現を学習します。本パートの具体例を紹介します。**a.** 毎日何時間も～にかじりついている（Lesson 1）⇒～をして何時間も費やしている He **spends hours each day ～ing./b.** ～に話がはずみました（Lesson 3）⇒～について話すことを楽しみました We **enjoyed talking about** ～ /**c.** ～に物足りなさを感じる （Lesson 4）⇒～に完璧に満足しているわけではない I am **not completely satisfied with** ～. /**d.** ～と思い込んでいた （Lesson 7）⇒誤って～と思っていた I **incorrectly thought that** ～.

◆ Outlining で誰でも書けるパラグラフ

Keynote Passage でパラグラフの具体例を示し，その構成を分析するのが，英文の設計図となる Outlining です。パラグラフは 1 文 1 文を柱や梁のようにして，つながりよく組み立てた「言葉の建造物」ですから，設計がしっかりしていれば，英語が苦手な生徒でも論理性のある英文が書けます。さらに，Get Ready to Write は発想や不足語句のヒントを提供しています。

◆厳選されたテーマと語句・表現の学習サポート

テーマは生徒に考えてほしい多くのものから厳選しています。大学入試のテーマ英作文でも取り上げられているのはその重要性を証明しているとも言えます。Part 2 の基本語句や表現の復習・定着のために『ライティング・サポート・ノート』（標準編）を，本書で扱ったテーマで大学入試でも用いられている英文やライティング問題を発展学習するために『ライティング・サポート・ノート』（発展編）を用意しています。

◇各課のテーマと関連した大学入試問題の例

1 課：コンピュータ社会（都留文科大2011）・日記（京教大2007）/ 2 課：留学と日本紹介（大阪大2009）/ 3 課：大切な出会い・礼状（筑波大2004）/ 4 課：好きな本や映画（福島大2008/大阪大2005/青山学院大2006）/ 5 課：日本語独特の言い回し（大阪大2011）・失敗談（九州大2008）/ 6 課：視覚的メッセージ（青山学院大2007/お茶の水女大2006/慶応大2002）/ 7 課：食事と健康（青山学院大2007）/ 8 課：外国語の影響（東京大2010）/ 9 課：成人年齢（一橋大2006/関西学院大2001）/10課：思いやりのある社会（甲南大2002）

◆ CLT からの “Departure（飛躍）”

1960年代までは，言語は a system of rules ととらえられ，1970年代になって，a system of the expression of meaning と考えられるようになりました。その結果，Communicative Language Teaching（CLT）が世界的に広まり，日本でも Oral Communication の授業が誕生しました。近年は文法指導を盛り込んだタスクを用いる Focus on Form が唱えられています。*Departure English Expression II* はその歴史的な流れに沿った，CLT からの新たな departure を果たし，高いコミュニケーション能力を習得する一助となると確信しています。

（よしだ　けんぞう・兵庫県立長田高等学校教諭）

Departure English Expression I, II

Part 3〜5

英語で活動する楽しさを生徒に！

今川佳紀

Part 3 から Part 5 は，自分の意見や考えを伝える運用能力を高めることを目的とし，生徒が「易→難」という流れで，高度な運用能力を段階的に身につけることができるように，以下のような構成になっています。

Part 3 Expressing Opinions
Part 4 Presenting Opinions
Part 5 Exchanging Opinions

★思考のトレーニング

生徒の「わからない」には 2 つあるようです。1 つは，「言いたことはあるけれども，どのように書いてよいのかわからない」。これについては，Part 1 及び Part 2 を学習していくと書けるようになります。2 つめは，「何を書いてよいのかわからない」。自分の意見や考えが思い浮かばないことが原因の 1 つと考えられます。この 2 つめの「わからない」に対して，生徒をサポートするために，思考のプロセスを Step 化しました。この Step に従って考えていけば，自分の考えや意見をまとまった形で書くことができるようになっています。Part によって多少のちがいはありますが，全てのレッスンを通じて，『ブレインストーミング』→『関連付け』→各段落のトピック・センテンスを考えて骨子を作る『構成』→サポーティング・センテンスによる『肉付け』→『エッセイ（パラグラフ）・ライティング』→『推敲』→『練習』→『発表』といった流れを基本的な学習 Step としています。思考の順序をルーティン化することにより，思考のプロセスに慣れることができます。

★生徒自身で確認できる

『推敲』や『練習』と『発表』の Step では，意識してほしい点について項目化していますので，生徒自身で確認しながら活動を進めることができます。さらに，Self-assessment を各 Part 末に載せていますので，生徒自身で Can-Do リストのように自己評価をすることができます。

★生徒に身近な話題を提供

各 Lesson の話題は，生徒が自分の意見や考えを想起しやすいように身近な話題を設定しています。また，ブレインストーミングの時に自分の考えや意見を考えるきっかけとなるようにヒントとなる質問をリストアップしています。さらに，生徒の思考が広がるように，グラフや表などのデータを掲載している Lesson もあります。

★例を見て学ぶ

各 Lesson では，ブレインストーミングや構成，肉付け，Speech，Show & Tell，Debate の立論等，モデルを提示しています。指示だけでは抽象的で理解しにくい内容でも，例を参考にすることで，具体的な活動内容がイメージできるようになっています。

★「活動用シート」

教科書にも生徒が書き込みできるスペースを設

けていますが，毎回，提出させてチェックしたい場合は，付属データの「活動用シート」をご利用いただけます。この「活動用シート」は先生方のご指導に合わせて加工することができます。

★先生方の準備や指導のご負担を軽減

表現活動のための準備や導入は時間がかかり大変です。思考 Step のルーティン化により，先生方のご指導の一貫性を保つことができます。このルーティンに慣れれば，生徒自身でどんどん先に進めていくことができます。また，『推敲』や『練習』，『発表』においてポイントを項目化しているので，生徒自身で取り組むことができます。学習の遅れがちな生徒に，より時間をかけて指導することも可能となります。

★徐々にインタラクティブな活動へ

英語で発表したり，意見交換したりすることが苦手な生徒でも，段階的にインタラクションに慣れられるよう配慮しています。Part 3〜5 で順序立ててご指導していただくことで，生徒間のインタラクションが徐々に増え，精神的な負担をあまり感じずに学習していけるような構成としています。Part 3 では，自分の意見を論理的にまとめる，Part 4 では，自分の意見を伝える，Part 5 では，自分の意見を伝え，相手の意見を聞き，議論をする形式です。また，生徒の運用能力に合わせて，Part 4 から始めたり，Part 3 で終わるという選択的な使い方もできます。

★各 Part におけるレッスンの学習概要

『Part 3』 Expressing Opinions

Lesson 1　論理的構成を意識して，1 パラグラフを書く。

Lesson 2　賛成または反対の視点から考え，1 パラグラフを書く。

Lesson 3　段落構成を意識して複数のパラグラフを書く。

『Part 4』 Presenting Opinions

Lesson 1 Show & Tell：物などを見せながら，説明をする。

Lesson 2 Speech：体験談などをまじえながら，自分の意見を発表する。

Lesson 3 Presentation：資料などを提示しながら，説明や提案をする。

『Part 5』Exchanging Opinions

Lesson 1 Mini-Debate in Teams of Four：簡単な形式の Debate を少人数で練習する。

Lesson 2 Debate：ある論題について，全国大会のフォーマット例で Debate をする。

Lesson 3 Panel Discussion：ロールプレイング形式で Discussion をする。

Debate の方が Discussion より難易度が高いと感じるかもしれませんが，実際には Debate はルールに従ってやっていけば成立します。オープンな議論になる Discussion よりも，むしろ取り組みやすいと考え，上記の構成にしてあります。

★Critical Thinking & Quick Response の練習

Part 5 の「はじめに」では，Debate や Discussion に必要と考えられる Quick Response，Critical Thinking を身につけることができるように Practice を準備しています。また，練習問題を通じて，Quick Response，Critical Thinking の訓練，及び思考の訓練ができるようになっています。

★英語を使う楽しさを

英語を使って活動するためには準備が大変ですが，実際に英語で活動を行うと楽しく，達成感があるものです。次の学習への内的動機付けとなることでしょう。Part 3 から Part 5 を使用して，生徒に英語を使って活動する楽しさを体験してもらえると幸いです。

（いまがわ　よしき　立命館宇治高等学校教諭）

Departure English Expression I, II

〈指導資料・副教材の特徴と活用法〉

Departure I——文法の扱いの観点から

加藤治之

◆はじめに

「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」は「文法」という言葉を46回用い，その扱いについて次のように述べている。

⑴　文法はコミュニケーション能力育成の基盤。

⑵　すべての文法事項を「コミュニケーション英語Ⅰ」で扱う。

⑶　言語活動を行うことが授業の中心となっていれば，文法の説明は日本語を交えて行うことも可。

⑷　用法を細かく分類し網羅的に指導するのではなく，実際に使用させながら，意味の微妙な違いや使用頻度の高い表現などを身につけさせる。

⑸　解説や問題演習に終始せず，言語活動と効果的に関連づけて指導する。多くの言語活動を経験させることによって言語は徐々に内在化される。

以下，上の各点と関連づけながら *Departure I* の文法の扱いおよび指導資料・副教材の特徴と活用法について述べる。

◆重要項目の網羅と配列・各課の話題

コミュニケーション能力の育成を念頭に置きながら，伝統文法に基づく主要全項目を縦軸，各課の話題を横軸に据えて，両者をなるべく紡ごうとした。この方針はすべての課で貫かれているが，最も典型的な例は，助動詞と環境問題（Lesson 6），比較と人口問題（Lesson 13），関係代名詞と尊敬する人物（Lesson 14），仮定法過去完了と日本の歴史（Lesson 19）などに見ていただけると思う。

◆日本語による指導

中学・高校の英語の総授業時数は，多くても800時間程度であろう。これは「アメリカの学生が日本語学習で Professional Proficiency レベルにまで到達するのに要する時間は約4,400時間」という指摘（河合忠仁（1998）「第二言語学習の開始時期」『英語教育』大修館書店，6月号 p. 21）と比べると，わずか5分の1以下という少なさである。このような状況下で効率的な英語習得を目指すには，文法指導を主として日本語で明示的に行わなければならないことは，生徒が獲得している母（国）語を利用するという積極的な意味においても，理の当然である。（もちろん，英語による指導を排除するものではない。）

◆文法項目の精選

英語表現の単位数は多くない。どれほど文法が重要といっても，細かい用法に分類し網羅的に解説・指導・問題演習を行っていては，十分な言語活動は行えず，言語の内在化も果たせない。*Departure I* では，各課の Expressions を5つに精選した。全20課でおよそ100項目となるわけで，これだけの文法項目を習得すれば，英語表現の基礎力は十分身につくが，巻末に Expressions for Expansion も設けた。この appendix は，単に細かい文法項目を追加したのではない。実践的な表現力の拡充に大いに役立つものと信じる。

◆指導資料（TM）について

各課の文法解説は，コミュニケーション能力育

成の観点から，その文法項目の意義・指導法・意味の微妙な違い・言語学の新知見などを述べた。

ここで一言述べさせていただかなくてはならない。当然のことであるが，文法というのは，言葉の使用があって後から整理・記述されたものであり，その逆ではない。常に Use が Usage に先立つ。各校の ALT を始めとするネイティブスピーカーたちが，教科書の本課や Expansion の英語表現について，他の表現を提示することがあるかもしれない。それが生きた言葉の実態を反映していることには反論の余地はない。しかし，*Departure I* で示した英語は厳選されたものであり，生徒に自信を持ってお示しいただきたいと思う。われわれは生徒に，まず，規範となるべき文法項目を習得させる必要があるからである。たとえば，仮定法過去完了の指導で I hear the party was great. (1) I wish I had been able to go. の代わりに(2) I wish I could have gone.という言い方がある。これなどは *Grammar in Use Intermediate* にも記載されている表現ではあるが，生徒に対する仮定法過去完了の指導としては，(1)の形を示すほうが理解しやすいし，あえて言うなら「基本」だろう。指導資料では，この辺の英語の実態を紙幅の許す限り Google の英米のサイトや COCA（＝the Corpus of Contemporary American English）などにも言及しながら扱っている。

◆副教材『グラマーノート』（*GN*）

GN は，単なる文法演習ノートではない。言語活動と関連づける問題を可能な限り取り入れた。教科書だけでは不十分な練習量確保のためにぜひともご活用いただければありがたい。編集には 7 人が関わり創意工夫を凝らしたつもりだが，改善の余地はあると思われる。全国の先生方からの忌憚のないご意見をいただき，よりよいものにしていきたいと思っている。

（かとう　はるゆき・京都府立嵯峨野高等学校教諭）

Departure II——書く力と自己表現の観点から

II は *I* で培った基礎力を元に，一文から複数のパラグラフまで書ける力を養い，場合によってはディベートやディスカッションなどで自分の考えを表現する力までつけられるよう工夫した教科書となっています。そのために副教材として『ライティング・サポート・ノート』をご用意しました。

Part 1 は，並べ替えや和文英訳に取り組みながら，アイデアを 1 つの英文で表現できる力をつける練習問題。Part 2 はテーマに沿った語彙力をつけながら，段階を追ってまとまった文を書いて最終的には 1 パラグラフ書ける力を身につけられる練習問題。いずれも大学入試も見据えた本格的なライティング力を生徒が身につけられるよう懇切丁寧に「サポート」することを追究したワークブックです。

また教科書 Part 3 ～ 5 に対応した『活動用ノート』もご用意しました。最終的にはプレゼンやディスカッションする力を身につけるところまでいけるように，ブレインストーミングや構成・肉付け，そしてエッセイ・ライティングとその推敲までを練習しながら，その活動を記録できるノートになっています。繰り返し自分の「表現過程」を振り返ることにより，真の表現手順が身につく工夫がされています。

Teacher's Manual では *I* から受け継がれる文法の徹底解説に加え，文章を豊かにするための語彙や表現を豊富に紹介し，本格的なライティング力を養うコツをふんだんに盛り込み解説しています。また，今までその入り口程度までの案内にとどまっていたディベートやディスカッションについても具体的なやり方，および指導手順を使える表現集とともにご用意しました。

真の「ライティング力」と「英語表現力」養成のためのツールとしてご活用ください。（編集部）

Genius English Communication I, II

大学入試へつなげる教科書の活用法

秦野進一

大学入試に必要とされる読解力

国公立の二次，私立の難関大学の昨今の入試の読解問題の総語数はおよそ2000〜2500語程度である。読解以外の問題もあるので，受験生たちは難解な英文をかなりの速さで読み，かつ正確に内容を読み取ることが求められる。このような読解力は教科書の１つの単元を数時間かけて読み進めていくような指導だけではなかなか身につかない。必要とされるのは，ある程度の分量の英文を素早く読み進める速読力と，特に重要な部分を丁寧に読みとる精読力である。まさに新学習指導要領のコミュニケーション英語IIに関して述べられている「速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする」力が求められているといえる。

実践している多読指導例

勤務校では従来，教科書を使用して総合的に英語を学習する授業と，副教材を使用して論説文中心の難解な英文の精読をする授業を並行して行い，かつ通称「ホームリーダー」という，年間８冊程度の読み物教材を生徒に読ませる多読指導を行っている。この多読活動は生徒が自力で読み進めるものとし，比較的平易で，内容の面白いものを選んでいる。分量的には8000語程度のものから洋書１冊まで様々である。多くの英文を読むことで，英語に慣れ，読解力・速読力の養成に役立てることを目的としている。また教科書１課分の英文を１枚のプリントにして各課の最初の授業時に一気に速読で読ませる活動を行うこともある。この場合は簡単な内容理解を問う質問を用意し，その答えが書かれている部分に下線を引かせながら読ませている。質問がヒントとなって読みやすくなり，読むこと以外（答えを書きだすこと等）に時間を使わせず，読解に集中させるためである。多読と精読を並行して行わせることで，目的に応じた読み方ができることを指導目標としている。

本課と同じテーマの速読・多読教材 Read On!

教科書の英文というのは，語彙や文法がきれいに整えられているので安心できる反面，大学入試を見据えた場合には，分量・内容面で物足りなさを感じることも多い。私はよく学習した単元に関連したテーマの英文をウェブ上や過去問から見つけて生徒に読ませているが，適したものが見つからないこともある。「せっかく興味深い内容について学習し，生徒の関心も高まっているのだから，そのタイミングで関連するテーマの英文を多く読ませたい」という思いから生まれたのが，新 *Genius* に設けられた Read On!（以下 R. O! と略）である。本課で扱われているテーマに関連した英文が各課ごとに計10本用意されているので，本課の学習後に読ませることで，学習内容を深く理解し，読解量も倍以上に補強することができる。

Genius I の中から内容をいくつか紹介すると，５課では闘病に苦しむ幼い女の子が，自宅前のレモネードスタンドで集めたお金を，医師が病気を治すための研究に使うために寄付をしたことからアメリカ中に広がった“Lemonade Days”の運動についての英文を読む。その後の R. O! では実際にアメリカでこの運動を進めている Alex's

Lemonade Stand 基金のウェブページから，関心を持った人がレモネードスタンドを始めるにはどうしたらよいかのノウハウを説明した英文が載っており，現在どのようなサポートが提供されることで運動が広まっているのかが理解できる。また 8 課では地球規模での水資源の問題を考える論説文を読み，R. O! では実際に水をくむために毎日何時間もの道のりを歩く女性たちの生活の様子が紹介されているので，論説文で読んだテーマを一層深く理解できるであろう。

R. O! で扱っている英文のジャンルは新聞記事，ウェブサイト，ルポ，絵本と多岐にわたっているので，生徒にいろいろな種類の英語に慣れさせることができる。今までの倍の量の英文量ではとても授業時間では扱いきれないと思われるかも知れないが，R. O! の基本的なコンセプトは多読・速読用教材である。難しい語には英文のすぐ右側に傍注で意味が示されているので，生徒は読む際に何度も辞書を引くこともなく，視線を右にずらすだけでその語の意味を理解し，読解に集中して読み進めることができる構成になっている。R. O! を読ませることで様々な種類の英文読解力の増強に役立つだけでなく，本課で学習したテーマについて深く理解し，考えることができるのである。

Read On! の授業での活用例

R. O! の標準的な扱い方としては，１課を学習した後で授業を１時間充当して学習するというやり方が考えられる。例えば *Genius I* の教科書の最後の R. O! 教材である“Alia's Mission”を題材に50分の授業構成案を考えてみたい。この話は湾岸戦争のときに，図書館の本を守るために司書の１人が近隣の人々と協力して自宅やレストランに本を運び，本の消失を免れたという実際にあった話を元にした漫画が出典である。１年生の終わりに，この程度の分量（1703語）の英文の速読に挑戦させたいと考えて原文をほぼ全文掲載した教材である。この英文を１分間に120語程度のペースで読ませるとして約15分～20分を充てる。授業の冒頭に一斉に読ませ，経過時間を板書して自分の wpm を把握させる。その後，課末の Questions の答え合わせをしながら内容の確認を進め，重要表現や語彙の指導を行う。本課で学んだ内容と合わせて感想を書かせることで，常に自分の意見・感想を持つ習慣がつく。可能ならば感想を英語で書かせる表現活動につなげることもできる。

さらに本課の課末の Discussion や Project と合わせることで，学んだテーマについて自分の考えを持ち，英語で表現し，発表して意見を交換するという形の post reading 活動に発展させることができる。本課だけで手いっぱいという場合には，自宅での課題とすることもできるし，長期休業中の課題にすることも可能である。

他のお勧め Read On! 教材

Genius II の中からもいくつかのお勧め教材を紹介したい。４課では，イスラエル兵の誤射によって12歳の息子の命を奪われたパレスチナ人の両親が，息子の臓器を病気で苦しむイスラエル人たちに提供することで，平和を強く希求する思いを伝えた話を読む。対応する R. O! では，イスラエルの18歳の少女が日々の生活や平和への思いを書いた英文を読むことで，両方の立場を知った上で平和について考えることができる。後半にはやや難易度の増す教材もあり，９課では NHK のハーバード白熱教室で有名なサンデル教授の「自由とモラル」の論説文を読み，R. O! では数々の企業家を輩出してきたスタンフォード大学企業家コースのティナ・シーリグ教授による，逆転の発想の論説文を読む。他にも生徒の知的好奇心を刺激し，本課のテーマを深く理解する教材が *Genius I～III* の各教科書にたくさん用意されている。多くの先生方が，Read On! を活用することで生徒の速読・読解力増強に役立てていただくことを切に願っている。

（はたの　しんいち・東京都立西高等学校教諭）

Genius English Communication I, II

教科書の読みを深める『学習ノート』の効果的な活用法

田中知聡

いよいよ新学習指導要領のもと「コミュニケーション英語Ⅰ」の教科書を用いた授業が始まります。各校では実施に向けて様々な準備が進められていることと思います。*Genius English Communication I* は話題が豊富でメッセージが深く，国際社会に生きていく人材を育成する上でもとても興味深い内容になっています。その教科書の良さを最大限に引き出す授業を展開する目的で『学習ノート』は構成されています。スムーズに授業へ導入し，「発問」を通して生徒に目的を与え，何度もテキストに向き合うことになります。その中で生徒はメッセージに気づき，新たな発見や感動を体験していくでしょう。以下に『学習ノート』の効果的な活用方法を見ていきます。

1．『学習ノート』の効果的な活用方法

①「読みたい」と思わせる **Pre-Reading**

レッスンの各パートの初めに，オーラル・イントロダクションとして利用できる簡単な質問が用意されています。この問いを利用して教師が生徒と英語でやりとりをしたり，JTE と ALT が会話をしたりすると英語での導入がスムーズにできます。生徒からは様々な意見や自らの体験が返ってくるでしょう。この活動により，本文を読む動機づけにもなりますし，話題を身近なものとして捉えることができるはずです。時間があれば英語による会話を続けたり，より多くの生徒に答えさせたりしてもよいですし，時間がないときにはさっと確認する程度でも十分だと思います。

②「大意把握」をさせる **First Reading**

教科書本文の大まかな内容をつかむ簡単な問いです。キーワードを手掛かりに大意をつかませます。速読として読ませたり（Reading），リスニング活動として聞かせたり（Listening）すると効果的です。

私はよく，生徒に語りかけるように，強弱をつけながら読み聞かせます。そうすることで，生徒にとって少し難解だと思われる内容であっても取り組みやすくさせることができます。また，ナチュラルスピードで読み聞かせたり，CD を聞かせるのもよいでしょう。少しチャレンジングな方がよく取り組む生徒には，緊張感があります。

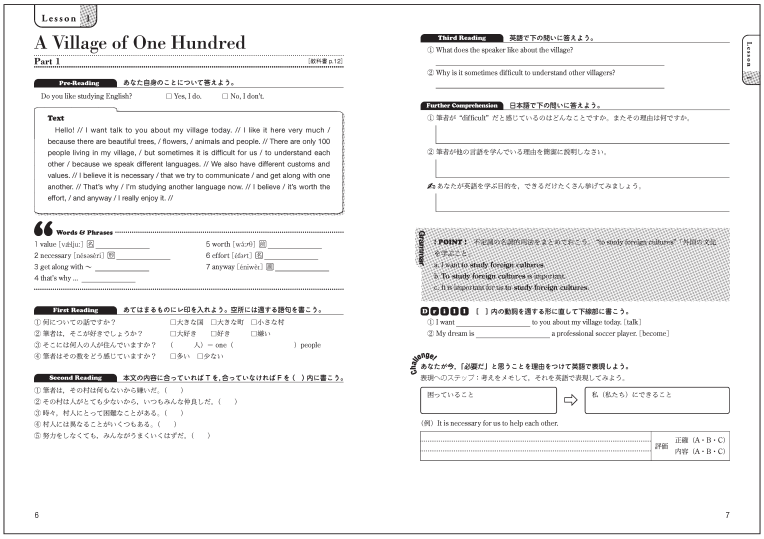
『学習ノート』の問いは日本語で書かれていますが，それを手掛かりに教師が英語で質問し，生徒にも英語で答えさせることをお薦めします。

③「しっかり読ませる」**Second Reading**

教科書本文のより詳しい内容理解へ導く問いです。問いに答えるためには，生徒がすでに知っている英語の知識をフルに活用して新出単語や熟語の意味を推測したり，全体を読み返したり，自ら辞書で調べたりしながら読み進める必要があります。文法項目にも自然に意識を向けるでしょう。授業中は，読ませる（Reading）だけではなく聞かせる（Listening）活動として用いても構いません。また，答えを確認する際には，語句や構文，文法がどのような意図で使われているかを確認するとよいと思います。

④ Third Reading

教科書に掲載されている問いと同じ問いです。英問英答ですので，授業中は会話を重視して単語レベルでもよいので英語で答えさせ，後で正確に書かせて確認をするなど生徒のレベルに応じて活用できます。



Lesson 1

A Village of One Hundred

Part 1 [教科書 p.12]

Pre-Reading あなた自身のことについて答えよう。

Do you like studying English? □ Yes, I do. □ No, I don't.

Text

Hello! // I want talk to you about my village today. // I like it here very much / because there are beautiful trees, / flowers, / animals and people. // There are only 100 people living in my village, / but sometimes it is difficult for us / to understand each other / because we speak different languages. // We also have different customs and values. // I believe it is necessary / that we try to communicate / and get along with one another. // That's why / I'm studying another language now. // I believe / It's worth the effort, / and anyway / I really enjoy it. //

Words & Phrases

1 value [vǽljuː] ＿＿＿＿　5 worth [wə́ːrθ] 形 ＿＿＿＿
2 necessary [nésəsèri] 形 ＿＿＿＿　6 effort [éfərt] 名 ＿＿＿＿
3 get along with ～ ＿＿＿＿　7 anyway [énəwèi] 副 ＿＿＿＿
4 that's why ... ＿＿＿＿

First Reading あてはまるものに○印を入れよう。空所には適する語句を書こう。

① 何についての話ですか？　□大きな国　□大きな町　□小さな村
② 筆者は，そこが好きでしょうか？　□大好き　□好き　□嫌い
③ そこには何人の人が住んでいますか？　（　　人）＝ one（　　）people
④ 筆者はその教をどう感じていますか？　□多い　□少ない

Second Reading 本文の内容に合っていればＴを，合っていなければＦを（ ）内に書こう。

① 筆者は，その村は何もないから嫌いだ。（　）
② その村は人がとても少ないから，いつもみんな仲良しだ。（　）
③ 時々，村人にとって困難なことがある。（　）
④ 村人には異なることがいくつもある。（　）
⑤ 努力をしなくても，みんながうまくいくはずだ。（　）

6

Third Reading 英語で下の問いに答えよう。

① What does the speaker like about the village?
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
② Why is it sometimes difficult to understand other villagers?
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Further Comprehension 日本語で下の問いに答えよう。

① 筆者が "difficult" だと感じているのはどんなことですか。またその理由は何ですか。
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
② 筆者が他の言語を学んでいる理由を簡潔に説明しなさい。
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
✍ あなたが英語を学ぶ目的を，できるだけたくさん挙げてみましょう。
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Grammar ! POINT ! 不定詞の名詞的用法をまとめておこう。"to study foreign cultures" 「外国の文化を学ぶこと」
a. I want to study foreign cultures.
b. To study foreign cultures is important.
c. It is important for us to study foreign cultures.

DRILL （ ）内の動詞を適する形に直して下線部に書こう。
① I want ＿＿＿＿＿＿ to you about my village today. [talk]
② My dream is ＿＿＿＿＿＿ a professional soccer player. [become]

Challenge! あなたが今，「必要だ」と思うことを理由をつけて英語で表現しよう。
表現へのステップ：考えをメモして，それを英語で表現してみよう。

困っていること ⇨ 私（私たち）にできること

(例) It is necessary for us to help each other.
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　評価　正確（A・B・C）　内容（A・B・C）

7

学習ノート

⑤「深く読ませる」Further Comprehension

教科書本文の内容をより深く理解させる問いです。これらの問いに答えさせることで，本文の主題を捉えるように導くことができます。✍マークの問いは答えが一つではない問い（open questions）です。そのため，さまざまな意見や解釈が出てきて構いません。読み取った内容について生徒一人ひとりがどのように解釈したか，なぜそう考えたのかを授業で共有するとよいでしょう。英語で意見を言える生徒には英語で表現させるよう励ますと，さらによい活動になると思います。

時間がない場合は省略しても構いませんが，できれば２～３文くらいの簡単な英語で教師自身が意見を述べたり，JTE と ALT が意見を述べ合うのを生徒に聞かせたりする活動に応用することも可能です。こうしたテキストのメッセージを重視した問いは，筆者が何を伝えようとしているのかに焦点を当てて読ませることを促します。ぜひ，読みを深める問いとして活用してください。

⑥文法を確認する Grammar

教科書本文の中で押さえるべき文法のポイントをまとめています。簡単な Drill などを用意しているため，短時間でポイントを確認できます。

⑦「自己表現活動」を目的とした Challenge!

文法項目や読み取った内容を基に，自分のことや身の周りのことを英語で表現させる活動です。表現に自由度があるため，生徒は自分自身の体験や考えを基に英語で表現することができます。

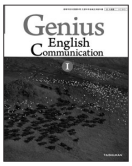
生徒が書いた英文を教師が読むのもよいですが，授業中にペアで確認させたり，グループで発表させたり，何名かの生徒に黒板に書かせてクラスで共有したりするとよいでしょう。評価欄の（A・B・C）は教師が添削して返却する際に便利です。生徒は内容だけではなく正確さも意識するようになり，次につながります。英文を返却する前に何人かの生徒の英文をコピーしたものを配布してフィードバックをするのも効果的です。生徒はとても楽しみにしているはずです。

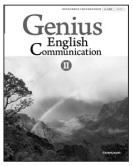
２．有意義な英語授業に向けて

新学習指導要領を実施する上で，「何だろう？」と生徒の興味をくすぐったり，「簡単なことから難しいことへ」ステップを組んだり，「自ら気づく喜び」を味わえるように仕組んだり，「伝えたいメッセージ」を持たせる工夫をしたりすることは不可欠です。ぜひ『学習ノート』を活用して，授業を楽しんでください。

（たなか　ちさと・山梨県立甲府城西高等学校教諭）

Genius English Communication I, II お勧め教材のご紹介





■ Genius I

L 1　A Village of One Hundred　〈世界情勢〉

Genius シリーズの巻頭を飾るのは，ベストセラーにもなった『世界がもし100人の村だったら』を原案とした書き下ろし教材です。この課は「100人の村」に住む高校生が自分の村を紹介するという設定で，世界の現状や問題点を身近なものとしてとらえるのと同時に，これからこの教科書で取り上げていくテーマ――教育，異文化理解，環境破壊，経済の不均衡，資源，など――への導入の役割も果たしています。

L 5　Alex's Lemonade Stand〈ボランティア〉

「レモネードの日」をご存知ですか？　アメリカでは子どもたちがお小遣い稼ぎに近所の人にレモネードを売ることがよくあります。しかし，「レモネードの日」には，世界中のボランティアがレモネードを売ったりして，その収益を小児癌撲滅の活動に役立てるのです。それを始めたのが，小児癌でわずか８歳で亡くなったアレックスという少女です。小さな少女の勇気と行動力が多くの人々の共感を呼び，世界各国で募金が集まる大きな活動へと広がっていきました。

L 9　Coffee and Fair Trade　〈経済〉

コーヒーは世界中に広まっていて，１日約25億杯も消費されています。しかし，コーヒー産業には多大な経済的不平等が存在します。消費者の払う価格のほんの数パーセントしかコーヒー豆の生産者に行き渡らず，その大部分は先進国の業者の懐に入っているのです。この不均衡を解消する一つの方法が，「フェアトレード」という考え方です。これは労働者の権利を守るだけでなく，生産による環境破壊なども防ぐ取り組みです。

■ Genius II

L 3　Nature Technology　〈科学技術〉

エアコンのいらない家，汚れが水だけで落ちる壁――こんな夢のような技術の裏側には「自然の知恵」が生きています。動植物が環境に適応してきたその仕組みを観察してそれを応用することで，便利でありながら地球に優しい生活が実現できるのです。46億年もの地球の叡智を活かし，環境と人間が共存できる科学技術，それが「ネイチャー・テクノロジー」の考え方なのです。

L 5　The World of Miyazawa Kenji Is Our World　〈日本文学〉

宮沢賢治作品の英訳を数多く手がけてきたロジャー・パルバース氏による，本教科書オリジナルのエッセイ。賢治がその作品で描いてきたのは，人間と動物・自然との関わりであり，これからの人間に求められているのは，地球の支配者として君臨することではなく，自然の一部として生きることだと，パルバース氏は説きます。また，賢治が東北という地に根を下ろしていたことも，何かの偶然ではないのでしょう。その視点で読み解けば，賢治の作品は21世紀に生きる私たちに，多くのことを語りかけてきます。

L 9　Michael J. Sandel on Kant: Freedom and Morality　〈哲学・生き方〉

ハーバード大学サンデル教授の著書『これからの「正義」の話をしよう』から，カントの説いた「自由」「倫理」「自律」を解説した一節を抜粋しました。大学進学の動機やお釣りをごまかす商店主など身近な例をあげながら，「自由とは何か」「真の自律とは」という問いに，深く迫っていきます。

（編集部）

Compass English Communication I, II

Compass 教科書 授業で生かすアイディア・方法

岩田純一

この教科書は，見開き左ページの本文に対して，右ページが「ワークシート」のイメージになっており，これに沿って授業を進めることで，Input → Intake → Output という流れにつながります。ただし，生徒を最もよく理解している先生方が自分なりの「味付け」ができるよう，掲載内容は授業形態を制約しすぎないように配慮されています。本稿では私の“Mostly English”の「味付け」を紹介したいと思います。

1．Input ――本文の理解

①写真を用いたトピックの導入

Lesson 1 扉

写真などを用いたインタラクションにより，動機づけと背景知識の共有を図ります。選択式の質問に挙手で答えさせたり，ペアやグループで会話をさせたりと，生徒の様子に合わせて活動を工夫します。本文に関連した写真が役立ちます。内容理解のカギとなる単語もここで導入しておきます。

②リスニングによる本文の導入

本書には身近で理解しやすい内容が多いので，リスニングから入ることで，チャレンジ感覚がやる気につながります。概要がわかれば答えられる（TF，または単語で答えられる）クイズを英語で与え，リスニング後にペア，全体で答えを確認します。これはテストではなく内容理解のためのステップなので，解答・解説の際のインタラクションが次のリーディングにおける詳しい内容理解への布石となるよう工夫します。

③ **Answer it!** を柱に本文理解のための Q&A

1. What did Angela Aki do at fifteen?
2. Who kept the letter?
3. What did Angela Aki write fifteen years later?

Lesson 1 Answer it!

リーディングタスクとして用意されているのが，本文の流れに沿った 3 つの質問，**Answer it!** です。本文の一部をほぼそのまま抜き出して答えられるようになっているので，ペアワークにも無理なく使えます。不得意な生徒にも「英語を話す」経験を積ませ，また「わかった」気持ちにさせ，授業にもテンポが生まれます。

私はこのコーナーを理解の確認のためというよりは，理解を助けるために使います。CD を聞き通読した後，この 3 つの質問を中心に，適宜質問を補ってやりとりをする中で，内容の理解を助け，それについて考えさせます。例えば **Answer it!** の最初の質問“What did Angela Aki do at fifteen?”への“She wrote a letter to herself.”という答えに対して，理解を深めるために“What did she write about?”と質問を補い，さらに“Have you written a letter to yourself?”と問いかけて内容について考えさせます。“Ask this question to your partner.”とペアワークも織り込み，“What did your partner say?”と全体の活動に戻します。本文と写真や図表を関連付

ける質問も有効です。**Answer it!** が様々なインタラクションに，そして表面的でない理解につながるよう工夫します。

2．Intake ――学習内容の定着

①音読

音読練習では正しい発音への意識付けのために設けられた **Sound** の項目だけは徹底します。音読方法は目的も考慮して単調にならないように変化をつけます。例えば内容を考えながら音読させたい場合には，１人称の立場で書かれた本文を３人称に変えながら音読させる場合もあります。

②**Focus on it!/Check it!**：ターゲット文法の学習

I **am working** for the environment.
be 動詞 ＋ -ing
「（今）～しているところだ」
We **were talking** in the classroom then.

Lesson 1 Focus on it!

日本語に合うように，与えられた語を使って英文を完成させましょう。
1. マンディは今部屋を掃除しています。
Mandy (　　) (　　) her room now. 〈clean〉
2. 何人かの男の子たちが公園で遊んでいました。
Some boys (　　) (　　) in the park. 〈play〉

Lesson 1 Check it!

教科書での文法学習の特長は，文法項目の自然な使用場面が本文に示されていることです。例えば著名人が自らの経験を語る Lesson 1 では，必然的に現在形・過去形・進行形が使用されています。**Focus on it!** は，本文からターゲットセンテンスを抜き出した体裁ですが，その文法項目と使用場面と結びつけ，例えばこの場合は，時の流れを示す線上に過去，現在，未来の出来事を並べるなど，板書も利用して理解と定着を図ります。

Check it! は，主に空所補充による英文完成です。生徒にとって身近な内容の文が使用されていますので，一工夫して使用場面を生徒にイメージさせたいものです。例えば，生徒に Mandy (is) (cleaning) her room now. と答えさせる前に，それが応答となる“Where's Mandy? I'd like to talk to her.”というような文を，キューとして口頭で与えるというのはいかがでしょうか。

3．Output ――学習内容を生かした発信

① **Use it!**：ターゲット文法を用いた自己表現

下線部の表現を変えて，将来のために今していることについて話しましょう。
A：What are you doing for your future?
B：I'm studying hard now.
Hint Box　practicing the piano　reading a lot of books　saving money

Lesson 1 Use it!

Use it! は，ターゲット文法を使用した「プチ」自己表現活動です。黙ってしまう生徒がいないように **Hint Box** が用意されていますが，余裕のある生徒にはさらに創造力を発揮させることも可能です。例えば設定された A → B にプラス１ターンを自由に加えさせ“What are you studying hard?”“I'm studying English hard because . . .”というように発展させることができます。また，ペアワークに続けて，数名に“What is your partner doing for his/her future?”と問いかけて全体での活動につなげることもできます。

文法学習を自己表現活動につなげることが生徒の文法観に与える影響は小さくないはずです。

②Summary Telling：読んだ内容を相手に伝える

読んだ内容を，学んだ表現を用いて教科書を見ずに英語で伝えられるようになることが私の授業の目標の１つです。**Answer it!** での Q&A の際にキーワードを板書しておくと，授業のまとめとして，それらを用いた Summary Telling を行えます。ペアで一方が立ち，キーワードだけを見て本文の内容を相手に伝えます。時間制限を設け，大きめのタイマーで残り時間を示すとゲーム感覚が加わり，生徒は意外と楽しそうに取り組みます。

常に有効な授業方法はありませんので多くの引き出しを用意しておくことが大切です。すこしでもご参考になることがありましたら幸いです。

（いわた　じゅんいち・千葉県立長生高等学校教諭）

Compass English Communication I, II

授業スタイルに応じて アレンジ可能な『授業プリント集』

浅見治子

素晴らしい教科書と使いやすい副教材がそろっていても，多くの先生が独自のプリントを作って授業を行っているようです。忙しい先生方の手間を減らし，かつ様々な生徒のニーズに合うようなワークシートを用意できないかと作られたのが，この『授業プリント集』です。

この『指導用 CD-ROM』所収のワードデータはそのままプリントアウトして使うこともできますが，必要な部分をつなぎ合わせて自分なりの授業プリントを作ることができます。最初の 2 p（以下，【通常版】）は主に教科書の基本的な内容をしっかり身に付けさせたい場合に使用し，以降（以下，【オプション版】）は知識の定着のための練習問題や，発信する英語活動に必要な設問，本文を加工した穴埋め問題，要約問題などが含まれています。以下に『授業プリント集』のそれぞれの部分について，その特徴を述べていきます。

1．教科書をプリント形式にした「通常版」

まず教科書の本文が載っていることにより，授業の中で，本文を書き写させたりコピーさせたりしたものに，生徒が先生の説明を本文に書き加えるという活動が容易になります。始めから配布プリントに本文が印刷されていれば，先生は説明を速く簡潔に済ませ，他のコミュニケーション活動の時間を多くとることができます。

① Hello.// ② I am Angela Aki.// ③ I am a singer-songwriter.// ④ At fifteen,/ I wrote a letter to myself.// ⑤ I wrote about my feelings.// ⑥ My mother kept the letter.//（以下省略）

本文の下には，そのパートの新出単語を整理する欄が設けられています。日本語を与えて英語を書かせる・英語を与えて日本語を書かせる，という 2 つのバージョンが用意されています。

次の，Answer it! の英問英答ですが，英問に答えることによって内容理解を深め，日本語に頼らない読解を目指すことが可能になります。データでは空所を入れてありますが，上位校では全体を記述式にしてもよいでしょう。オプションとして，追加の設問も用意されています。

1 語ないし 2 語で答えられるような簡単な質問は，CD を聞いた後に口頭で行うことができるでしょう。また，時間を制限して「1 分以内で 3 つの質問の答えを見つけなさい。」などと Scanning 重視の読解をさせることも可能です。このほか，英問の答えをつなぎ合わせて本文の要約を作らせることもできます。これは，生徒の実情に合わせて Writing，Speaking のどちらでもできます。

1. What did Angela Aki do at fifteen?
   She (　　) a letter to (　　).
2. Who kept the letter?
   (　　) (　　) did.
3. What did Angela Aki write fifteen years later?
   She (　　) a (　　) about that letter.

Focus on it! と Check it! は教科書のものがそのまま掲載されています。プリントに書き込ませることにより教科書はそのまま残り，後で教科書

を使用して（　）の中を補いながら読む活動ができます。また，プリントは回収することができるので，生徒の授業中の取り組みについてチェックし，評価をするのにも適しています。

続いてExpressionsですが，ここには教科書の脚注の表現を中心に，生徒に覚えてもらいたいものが挙げられています（プリント独自のコーナーです）。教科書とは違う例文が用意されているので，それぞれの表現の使い方を学び，練習することができます。【通常版】では日本語付きの穴埋め問題，【オプション版】は1語補充の並べ替え問題となっています。【通常版】と【オプション版】のすべてを授業で扱うのが難しい場合は，宿題にしたり，余裕のある生徒へのチャレンジ問題として別に配布したりすることもできるでしょう。また，定期考査の問題に加えてもよろしいかと思います。

Use it! とその中のHint Box! も教科書そのままの形でデータに入っています。このパートはFocus on it! で学んだ文法事項を使って話すことが目標です。それを授業プリントに載せておけば，生徒にプリントを持たせて席を移動させながら，パートナーを次々変えて口頭練習といった活動もスムーズに行うことができます。

2.「オプション版」で自由にカスタマイズ

【オプション版】のPre-reading questionsはレッスンに入る前にその話題についてのスキーマを活性化させるのに役立てることができます。日本語での設問ですが，実力のある生徒なら，英語で問いかけ，ディスカッションすることも可能でしょう。英語でのやり取りは内容理解が進んだ後に行うことにして，まず内容に興味を持ってもらえるように活用したいものです。

○自分自身に手紙を書いたことがありますか？
○それにはどんなメッセージを込めましたか？
○書いたことがない人は，もしこれから書くとしたらどんなことを書きますか？

本文穴埋め問題は単語テストとして活用できます。単純に日本語を英語にするテストではなく，本文全体を読みながら単語を埋めていけば，単語の使い方を確認できますし，英語を読む時間が増えることになります。選択肢やヒントを付ける・付けないで難易度の調整が可能です。

Hello.　I am Angela Aki.　I am a singer-songwriter.　At fifteen, I (1.　　) a letter to myself. I wrote about my feelings. My mother (2.　　) the letter.（省略）
[believe / kept / titile / wrote / past]
ヒント：1. 書いた，2. 取っておいた，3. 過去，4. 題名，5. 信じる

Summaryでは内容の理解，キーワードを覚えているか等の確認ができます。そのまま使って穴埋めをしたり，逆に穴埋めの答えだけを与えておいて要約文を作らせたりと活用範囲は広いでしょう。

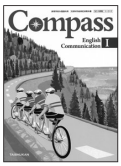
Angela Aki is a (　　). At fifteen, she wrote a (　　) about her feelings. Fifteen years later, she wrote a (　　) about that letter.

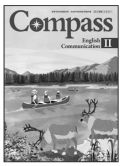
すべてのプリントには最初から解答が入ったバージョンも用意されていますので，自習などで答え合わせの時間が取りにくい時には重宝します。

このように，『授業プリント集』は先生方が欲しいと思う素材が満載です。重要表現をさらに使いこなすための練習問題，コミュニケーション活動に必要な英問英答など，普段先生方が校務の合間を縫って作っていらっしゃるものばかりです。この『授業プリント集』を使って，先生方が生徒と向き合う時間を少しでも増やすことができたら幸いです。

（あさみ　はるこ・埼玉県立蓮田松韻高等学校教諭）

Compass English Communication I, II お勧め教材のご紹介





■ Compass I

L 1　Dear Fifteen-year-olds　〈生き方〉

Compass シリーズは，3 人の著名人からの高校生へのメッセージで始まります。名曲『手紙～拝啓，十五の君へ～』が生まれたエピソードを通じて，多くの高校生と同じくさまざまな悩みを抱えていたアンジェラ・アキさんの高校時代の様子に触れることができます。登山家の野口健さん，宇宙飛行士の毛利衛さんには，それぞれ高校時代に将来に影響を与える出会いがありました。

これから始まる高校生活が希望に満ちたものになるように，たとえ平坦でなくても案じることなく前に進んで欲しい，というメッセージが託されています。

L 3　Kimonos are Cool!　〈伝統文化〉

Cool Japan の代名詞でもある着物や浴衣はすでに英語にも取り入れられています。ここでは，オーストラリアからの留学生のマンディと，早紀と卓也が浴衣を着て夏祭りに行く…という設定で，高校生の目線での伝統文化について紹介しています。襟付きや短い丈の浴衣，アフリカの柄を用いたもの，さらには犬用浴衣など，現代的なアレンジと伝統的な型が共存する日本文化の懐の深さに，生徒にも新たな発見があるでしょう。

L 8　The Ig Nobel Prize　〈科学・発見〉

「人々を笑わせ，そして考えさせてくれる研究」に与えられる「イグノーベル賞」。蚊がチーズの匂いに引き寄せられるという発見は，アフリカなどでの感染症予防の可能性につながっています。素朴な好奇心を持つことが科学の大きな発見への第一歩であることを伝えます。

■ Compass II

L 2　Takuya's Adventure in Canada　〈異文化理解〉

Compass シリーズを通して登場するキャラクターの卓也が，カナダにホームステイして体験する出来事を紹介します。多くの移民から成る多文化社会のカナダの生活や，先住民たちの伝統文化との関わり，また現地の高校生たちが積極的に授業に参加する様子など，さまざまな刺激を受けて自信を得ていきます。

L 3　Cooking with the Sun　〈科学・環境〉

世界中どこでも，無償で無尽蔵に得られるエネルギー＝太陽光の力を利用した調理器具があります。この「ソーラークッカー」は，炊飯やカレー，ケーキなど意外なほどさまざまな調理に対応しています。

衛生的な水の得られない地域での飲料水の確保や，薪を使用して調理を行う地域での重労働である薪とりからの解放など，特に途上国での活用が期待されています。

L 6　Architect in Action　〈伝記・人生〉

世界的に著名な建築家，安藤忠雄さんは，高校時代はボクサーで，建築は独学で学んだという異色の経歴を持ちます。代表作の1つである「住吉の長屋」は，多少不便はあっても自然と共に生活することを自らのデザイン哲学とする安藤さんの考え方が存分に生かされています。また，若い人に身につけてほしいスキルとして「読み書きそろばん」をあげていますが，これは文字通りの意味ではありません。ぜひ本文を読んで安藤さんの人生観に触れてみて下さい。　（編集部）

フォニックスからシャドーイングまで
英語音読指導ハンドブック
鈴木寿一・門田修平　編著

A５判・418頁
本体2900円＋税

吉田晴世

音読指導のすべてが網羅された１冊！

ずっしりと重い。400ページを超える大部なハンドブックであること以上に，編者・著者のこれまでの研究が集大成された「思いの込もった」重さなのである。

本書は，第Ⅰ部：導入編，第Ⅱ部：実践編，第Ⅲ部：理論編，そして，初心者への配慮として，「基礎知識」が設けられている。この部構成はユニークである。

第Ⅰ部の導入で読者を引きつけた後に，現場の者にとって喉から手が出る程欲しい「明日の授業で使える」指導法が第Ⅱ部で紹介される。そして，自身が行った授業体験を通して得られた成果を振りかえる時に，第Ⅲ部の理論編が大きな意味を持ち，「ああ，そういうことなのか」と納得できる。

導入編：第１章の「音読指導自己診断テスト」は，授業や自主学習を始める際に直面する課題であり，その部分を具体的にかつ教室現場で活用できる方法を示している。

第２章は，「音読指導Ｑ＆Ａ」で，音読指導はなぜ必要か？に始まり，シャドーイングやパラレル・リーディングにはどんな効果があるか？音読は入試対策として効果があるか？フォニックスはなぜ必要か？いろいろな音読指導法をどのような順序で用いればよいか？等の，現職教員がまさしく求めている疑問に答えてくれる。

実践編は，７章から成り立っているが，第３章の「3.6　変化をつけるための音読指導法」は，とても興味深い。ネイティブ・ピッタシ音読／妨害読み／追っかけ読み／逆さま音読／つっこみ音読／リレー音読／役割別音読／スキャニング音読／輪読など，「どのような指導法なのだろう」と，思わずページを開きたくなるキーワードが含められている。

第５章「教科書を用いた音読・シャドーイング指導（中学校）」は，教室現場で特に役に立つ情報である。会話文，説明文，物語文のジャンルにより指導法が異なる。これは，ある意味指導上の盲点であり，音読・シャドーイングの広さと深さを教示してくれるものである。

さらに，第６章「教科書を用いた音読・シャドーイング指導（高校）」の中の「文法指導における音読指導」と「語彙指導における音読・シャドーイング指導」は，リーディング教材でなくとも音読指導は可能であることを示してくれる。

理論編は，いわずもがな，多くの学術的背景を，わかりやすい表現で解説している。音読実践を経験後に読む者にとっては，「なるほど」とおもわず膝を打つ解説となっている。何度も何度もページを手繰り，２倍の厚さに膨れ上がるほど読み込んでいきたい，教育的価値のある著書である。

（よしだ　はるよ・
大阪教育大学教育学部教授）

協同学習を取り入れた英語授業のすすめ
江利川春雄　編著

四六判・272頁
本体2000円＋税

伏野久美子

協同学習で質の高い英語授業を実践

英語教育は「知識としての英語」から「使える英語」の教育へと変容してきている。本書は時代の要請に応えるべく，協同学習を使用して英語運用力を高める実践例を豊富に紹介している。まず協同学習の基本理念を押さえた上で，英語授業での協同学習の進め方の概略を解説し，次に，小学校から大学まで各レベルでの実践例を豊富に紹介している。その後，教室内での協同学習から「学びの共同体」構築への道筋を示し，最後に教師が疑問に思うと予想される事柄についてのＱ＆Ａも用意されている。

本書は「学びの共同体」と日本協同教育学会で定義する「協同学習」の両者の理念を融合しつつ，学校現場で教師が協同学習を実践していくための「教師目線」を貫いている。第１章では，実践の支えとなる11の理念を説明する：a)建設的な支え合い，b)グループ作りと座席の配置，c)小集団でコミュニケーション力養成，d)個人の責任の明確化，e)ハイレベルな教材やタスクの設定，f)グループによる振り返り，g)協同学習での評価法，h)学びを深める教師に，i)授業公開と教師の同僚

性の向上，j)自分の授業改革から全校的な改革へ，k)保護者・地域住民の参加。

第2章では，実際に英語の授業に協同学習を取り入れる場合の留意点を提案する。英語教育での協同学習の実践には，他教科とは異なる独特の難しさが伴う。それを踏まえた上で，一斉授業と協同学習の組み合わせ，日本語による話し合い，到達目標・課題・評価基準の明示，相談タイムの設定，質の高い教材とタスクの設定など，第二言語習得理論を鑑みても納得できる方略を提唱している。

第3章からは小学校から大学までの実践例を詳細に紹介する。どの例も魅力的でアイディアに溢れており，少しの工夫で校種の枠を超えて活用可能なものばかりである。例えば，小学校での「テーマ“Garbage”で学ぶ外国語活動」は英語使用率を増やせば，高校や大学での授業にも取り入れられる。

本書の最大の魅力は，進学校での実践も紹介されていることであろう。質の高い教材を協同学習で深く学ぶ実践例，ハンドアウトを活用し「文法・訳読教授法」でも大学受験にも配慮した協同学習が可能なことを示した例，プレゼンテーションやディスカッションなど課題の高度化により生徒の英語総合力の向上に成功した例，ICTを活用した例など，どの実践も，高レベルのタスクを課すことで，進学校でも協同学習を用いることができ，質の高い学びを創出することが可能であるということを示している。本書は幅広い読者に対応しているが，特に高校の先生に読んでいただきたい1冊である。

（ふしの　くみこ・立教大学ランゲージ・センター教育講師）

タスクを活用した英語授業のデザイン

松村昌紀　著

四六判・320頁
本体2400円＋税

戸出朋子

タスクの真髄に迫る

本書は，「タスクとはどのような活動を指すのか，日本の学校教育の条件下でどう活用すればいいのか」といった教師の疑問から出発し，それぞれに対して著者の答が展開されるという形をとる。タスク関連の書籍は多く出版されているが，タスクの定義，意義，日本の学校英語教育での実施可能性などについて疑義・誤解が尽きない。本書は国内外の文献の綿密な調査に基づき，疑問を解きほぐした上で，著者独自の「タスク媒介型の指導」を提案する。理論面が丁寧に掘り起こされ，タスクの正しい理解に導かれる。以下に，特に重要と思われる内容について要約を試みるので，読書の指針になればと思う。

1～3章を読み進める中で，タスクとは何かへの理解が深まる。まず「活動成果の重視」，「意味へのフォーカス」，「自然な認知プロセス」，「学習者の主体的関与」というタスクの4条件の説明とともに具体例が挙げられ，それがなぜタスクなのかタスクでないのかが解説される。タスクは言語使用の場面を生み出す「シーンセッター」にすぎず，指導法のパッケージではないと著者は強調する。タスクをどう活用して授業展開するかは教師が決定すべきなのだ。次にタスクを活用した授業展開の一形態である「タスク中心の言語指導」について解説が続く。この指導では，従来のPPP（提示・練習・表出）型指導と違って，タスク活動が文法指導に先行する。PPP型指導は「学習項目を学習者の外部で決め，授業時間内にその完全習得を求める」のに対し，タスクを中心とした授業展開では，学習者は自分の「内側から生み出される意味」から出発し，四苦八苦する中で生まれた疑問に対して「その答を与えられる形で文法に出会う」と言う。

ここで「未習のことを使えるわけがない」，「日本の学校教育の諸条件下ではタスク中心の指導は無理」という反応があるであろう。4章ではそれに対する答が「タスク媒介型の指導」の提案の中で示される。この指導では文法シラバスの教科書使用を前提としているが，タスクが目標文法事項の導入に先行する。もちろん学習者は教えられていない文法項目を使えるわけがない。彼らは自らの能力を駆使して自由に表出するのだ。ここでタスクは，既習事項を繰り返し使う機会を生み出し，同時に，後続する目標文法事項導入の際の意味の文脈となると言う。日本の他の学者たちが提案してきたPPPの枠組みでのタスク活用法とは決定的に異なることがわかる。

後の章ではマネジメントやテストを含む実践上の助言が続き，教師へのメッセージで締めくくられる。繰り返し語られる著者の言葉が，タスクの真髄の理解や固定観念からの解放へと我々を導いてくれる。

（とで　ともこ・広島修道大学人文学部教授）